3/20 朝日

再稼働 責任持つのは

県は質問状拒否

関西電力の八木誠社長が美浜原発1、2号機の廃炉を西川一誠知事に報告した17日、県庁には全国から報道陣が詰めかけ、物々しい雰囲気に包まれた。一段落した午後、関電は高浜原発1、2号機と美浜原発3号機の再稼働に向けた審査を原子力規制委員会に申請したと発表した。

2015 統一地方選

どうなる原発銀座㊦

40年間反原発運動を続けてきた明通寺（小浜市）の中嶌哲演住職は「我々にとって美浜1、2号機の廃炉は既定のこと。若狭全体に巨大地震が到来すれば、複数の原子炉で事故が起こる可能性もある。規制委は個々の安全性を審査するだけで、その点を考慮していない」と批判する。

普段は柔和な中嶌さんが2月中旬、珍しく声を荒らげた。知事の秘書業務や県民の意見を受け付ける県庁7階「県民サービス室」の入り口前だった。

「ここまで県民を侮辱するんですか！」

原発再稼働に反対する市民グループが、知事宛ての公開質問状をサービス室に届けようとしたが、他部署の職員が入り口を塞ぎ、質問状を受け取ることを拒否した。市民グループは、再稼働を認めないよう求める署名20万5千筆を知事に直接手渡せるようにも要望してきたが、それも受け入れられなかった。

中嶌さんは「歴代の知事とは直接会って話ができたし、節目には、県が住民説明会を開いてきた。今は県民の声を届ける機会すらなくなった」と嘆く。

西川一誠知事に署名を手渡そうと面会を求め、県庁に集まった市民ら＝2月13日、県庁

規制委「判断せぬ」

そもそも再稼働は誰が決めるのか。責任の所在はあいまいなままだ。

3年近く前に関電大飯原発3、4号機が再稼働した際、西川知事は「国が責任を持って原子力の必要性、重要性を国民に説明し、分かってもらうことが重要」と繰り返した。当時の民主党政権の野田佳彦首相は西川知事の要求を丸のみして記者会見を開き、西川知事の言葉をなぞって原発を「重要な電源」と位置づけた上で、再稼働の必要性を訴えた。

現政権の安倍晋三首相は「規制委により求められる安全性が確認された原発は再稼働させていく」と繰り返している。一方、規制委は昨年7月、九州電力川内原発1、2号機（鹿児島県）が新規制基準に適合すると判断したが、田中俊一委員長は「安全だということは、私は申し上げません。再稼働の判断にはかかわりません」と言い切った。

これらの発言を受けて、西川知事は「事故が起こらないための責任を誰が持っているのか、はっきりさせる必要がある。安全に『隙間』がある」と不満をあらわにした。

説明責任もあいまいだ。

川内1、2号機の再稼働について、規制庁は鹿児島県の要望に応じて住民説明会を開いた。規制庁は「立地自治体からの要請があれば、説明会を開く」との立場だ。しかし、西川知事はこれまで、県側から原子力規制庁に説明会の開催を求める考えは示していない。

中嶌さんは「再稼働の責任を押しつけ合うのではなく、国と県の共催で説明会を開き、市民と直接話をするべきだ」と話す。

（山田理恵）